

刈谷市議 清水行男活動レポート

清水行男後援会機関紙
第2-1号
平成19年10月1日



御挨拶

7月の市議会議員選挙には、多くの皆様のご支持ご支援のお陰で優秀な成績で引き続き市議会に返ることができ、衷心よりお礼申し上げます。

今年は、各地で最高気温を更新するなど猛暑日が続き、9月になっても真夏日が多く、地球規模の異常気象が報道されるなど地球温暖化が急速に進んでいることを実感した夏でした。

一方、政局に目を向けると今年の前半は知事選挙、県議会議員選挙、市長選挙、市議会議員選挙、さらに自民党が大敗した参議院選挙と選挙に明け暮れる日々でした。そして、先日唐突として安倍内閣が総辞職し、福田新政権が発足しましたが、今後当分の間、政局は捻じれ現象により政策の調整・協議が必要なことから流動的に推移することが予想される所でありま。

刈谷市においては、新たに竹中市長の新体制が発足したところであります。新しいまちづくりに挑戦してもらうとともに、福祉政策の拡充など市民サービスの向上にも大きな期待がかけられています。その実現のためには、議会筋においても本来の役割を果たして行くことが重要であります。

私としても、これまでの4年間の経験と実績を基に、選挙で掲げた「幸せに暮らせる潤いと安らぎのある刈谷市」を実現するために頑張ってまいります。特に、「生活弱者への暖かい施策の実施」と「南部地域のまちづくりの推進」を重点に活動して参りたいと考えているところであります。



【議会関係の報告】

19年度は建設水道委員会の委員長に就任しました。

他に、議会推薦の農業委員、衣浦東部農業共済組合議会の議員、土地開発公社の理事を担当することになりました。

19年度の議会の主な役職

議長	塚本 孝明	副議長	安部 周一
監査委員	成田 正和		
議会運営委員会	委員長 寺田 吉成	副委員長	沖野 温志
企画総務委員会	委員長 白土 美恵子	副委員長	加藤 賢次
福祉経済委員会	委員長 神谷 昌宏	副委員長	野村 武文
建設水道委員会	委員長 清水 行男	副委員長	加藤 誠
文教委員会	委員長 森田 健資	副委員長	鈴木 絹男

【平成19年9月定例議会の報告】

主な議案、議事

◎9月議会は18年度会計歳入歳出決算の認定が主な審議、その決算額は次のとおり。

区 分	歳入決算額 (千円)	歳出決算額 (千円)	差引残額 (千円)
一般会計	58,495,809	52,711,345	5,784,464
特別会計 (10会計)	30,177,129	28,128,482	2,048,647
合 計	88,672,938	80,839,827	7,833,111

監査報告の要約

刈谷市は、健全で安定した財政を保っており財政分析指標では全国的にも高い水準を維持しているが、「地方分権化推進法」が制定され、国と地方の役割分担の見直し、税源の移譲や行政の簡素化が求められているなか、効率的行財政の運営を求められている。このような状況のなか、災害対策、防犯対策、環境対策、子育て支援対策、交通渋滞対策を重点施策に位置づけ一定の成果が認められた。

刈谷市行政経営改革大綱の理念に基づき、より効率的かつ効果的行財政運営を図り、市民の付託に応えることを望むとしている。

◎刈谷市消防団条例の一部改正 原案のとおり可決

刈谷市に在住していない者でも団員活動できる者も任命できる規定を追加する。

◎都市計画法施行令第31条ただし書に基づく開発基準の条例の廃止 原案のとおり可決

市街化調整区域において、大規模な開発（5 ha 以上）はできなくなるが、地区計画に基づく開発は今後
も行うことはできる。

◎岩が池公園の管理者の指定 原案のとおり可決

刈谷ハイウェイオアシス株式会社に決定

本会議一般質問の内容と回答(要約)

9月の市議会は、竹中市長の最初の定例会であり、14名が一般質問をしました。
私も14番目として、竹中市政の今後の方向性について、「自治基本条例の制定」
と「工業系土地利用の見通しとその対策」について質問を行いました。その要点
は以下のとおり。



問 1 自立する自治体を目指すには、理念や基本的規範を定める憲法というべき自治基本条例を制定する考えはある
のか。

答 19年度から市民協働条例の基本方針を策定するための業務を始めており、自治基本条例は、これと一体性があ
るため、19年度に予算を計上することとする。

評価 次は、議会基本条例を制定し、3点セットで刈谷市の市政の基本理念を定める。

問 2 行政経営改革大綱の成果を求めるには、職員の意識改革が必要であり、専門的な研修制度の見直しはどの程
度進んでいるのか。

答 経営管理能力の高い職員の養成に民間企業の経営戦略を取り入れた研修や課長級職員を自治大学校や外部
研修機関に長期に派遣するなど資質の向上に一層努めて参りたい。

評価 更に、専門的研修を充実し、職員の資質の向上に努める必要がある。

問 3 刈谷市は幸いなことに自動車産業の好景気に抱えられて、法人市民税が最高になっているが、将来を見通し
ると必ずしも安定しているとはいえない。そこで市内には現在工場を誘致できる土地はどの程度あるのか。市外
に用地を求めて出て行った会社はどれほどあったか。

答 大津崎工業団地がほぼ埋まり、刈谷市内にはまとまりのある大規模な土地は提供できないのが実態である。
市外の土地を求めたケースは10数社あったと聞いている。

評価 土地利用計画の前倒しの運用が必要である。

問 4 以上のような状況を踏まえると、都市計画マスタープランの前倒しによる市街化区域拡大の考え方はどのようにな
っているのか。また、野田町新田地区の開発の見通しと問題点はあるのか。

答 工業用地の確保は、自主税源を確保する面からも大事なことであり、野田町新田地区の用地確保に全力を傾ける
が、地権者の合意が必要不可欠なものであり、今後誠意を持って話し合いを進めて参る所存である。

評価 新たな工業団地の造成は、刈谷市の最重要課題である。

清水行男の2期目の主な活動内容

4年間の活動の実績と反省を踏まえて、また、選挙を通じての要望などを含め
て、今後4年間の主要な活動を次のように考えています。皆さんの協力と支援
をお願いします。

1 小垣江地区のまちづくりと振興

下水道の早期完了

市街化調整区域の下水道整備区域への取り込みと早期着工

市街化調整区域から市街化区域への変更

(都市計画税等の税負担と自由な土地利用の検討が必要)

小垣江駅東部土地画整理事業の推進

大津崎堤防の改修に引き続き、前川右岸堤防の改修の着手

2 南部(依佐美)地域の振興

農業と共生できる地域ビジョンを策定するための土地利用委員会の設置

自立農家、営農組織の育成と農地管理の見通しを踏まえ、スプロールの
防止のためのまちづくりのあり方を検討する。

国道419号線の交通渋滞の解消のための4車線化の推進及び沿線の環境
美化対策の実施

3 まちづくりの制度

集落内の狭隘道路の整備基準の新たな設定

(セットバック制度と幅員4メートル道路整備事業の創設)

編集後記

選挙、選挙に明け暮れる半年で、多くの皆さんの協力を戴き、ありがとうございました。これからの政局はど
のように動いて行くか見守りつつ、足場をしっかりと固めておくことが肝心と思います。

ご意見、ご要望については、TEL、FAX、Eメールをご利用下さい。

TEL 0566-21-4477

FAX 0566-21-4477 0566-21-4439

Eメール yukishi@katch.ne.jp (全て半角) HPのアドレス <http://www.katch.ne.jp/~yukishi/>



419号線沿いの流通施設の倉庫群



有効に利用されている整備済みの農地